

## 平成 26 年度動物由来感染症予防体制整備事業報告書（概要版）

### 1 事業の目的

岐阜県内で飼養されているペット（犬・猫）の病原体保有状況を調査分析し、動物由来感染症に関する正しい知識を普及することにより、動物由来感染症の予防及び発生時の適切かつ迅速な対応を促進する。

### 2 調査対象感染症

調査対象感染症	感染症の症状・特徴等	調査対象に選んだ理由
トキソプラズマ症	トキソプラズマのシストを含む食肉を加熱不十分で喫食、猫の糞便に含まれるオーシストを経口的に摂取することで感染する。免疫不全者には重篤な症状を引き起こし、また、妊娠中の女性が感染すると、胎児に重篤な症状をもたらす先天性トキソプラズマ症の原因となる。	過去には食肉衛生検査所において家畜、家禽の調査が行われているが、ペットについては調査が行われていないため。
E 型肝炎	ブタ、シカ、イノシシなどの動物に感染することが知られており、ウイルスに汚染された食物、水等を摂取することによって感染する。発症した場合、発熱・悪心・腹痛等の消化器症状や肝腫大、肝機能の悪化があらわれる。大半の場合、安静により治癒するが、妊婦が感染した場合、劇症化しやすいという報告がある。	犬及び猫からも E 型肝炎ウイルス抗体が検出された報告があるが、県内の状況は不明であるため。
重症熱性血小板減少症候群（SFTS）	ウイルスを保有しているマダニに刺咬されることで感染する。主な症状は、発熱、消化器症状（食欲低下、嘔吐、下痢）等が認められ、重症化すると死亡することがある。	県内で患者は発生していないが、マダニからウイルス遺伝子が、狩猟犬の血清から抗体が検出されているため。 人に身近なペットについてはこれまで検査されていないため。
日本紅斑熱	病原体を保有するマダニに刺咬されることで感染する。主な症状は、頭痛、発熱、倦怠感を伴って発症する。適切な治療により回復するが、治療が遅れると重症化することがある。	県内では現在までに患者の発生は報告されていないが、近県の三重県では毎年 30 件前後の報告があるため。

### 3 結果

調査対象感染症	対象動物	検査件数	材料	検査方法	検査結果		備考
					陽性 (陽性率)	陰性	
トキソプラズマ症	犬	53	血清	抗体保有の確認	11 (20.7%)	42	
	猫	52			7 (13.5%)	45	
E 型肝炎	犬	54	血清	E 型肝炎ウイルス遺伝子の検出 (PCR)	0	54	
	猫	52			0	52	
SFTS	犬	54	血清	抗体保有の確認	0	54	
	猫	52			0	52	
	犬	55	ダニ	SFTS ウイルス遺伝子の検出 (PCR)	0	55	
	猫	13			0	13	
日本紅斑熱	犬	55	ダニ	日本紅斑熱リケッチア遺伝子の検出 (PCR)	0	55	紅斑熱群リケッチア遺伝子検出 (1 検体)
	猫	13			0	13	紅斑熱群リケッチア遺伝子検出 (1 検体)